

2014年8月19日

川口市長 奥ノ木 信夫 様

ふるさと鳩ヶ谷の会 会長 山中 照行

(川口市坂下町2-5-6)

戸塚公民館を考える会 代表 鍋嶋 忠雄

(川口市東川口3-8-24-202)

川口市役所本庁舎建設にあたっての要望

時下、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。また、日頃、市民生活向上のためのご活躍に感謝致します。

私たちは、身近にある支所ですべての行政サービスが受けられるよう、支所を充実させること、また、市民が歩いて行ける範囲に使いやすい公民館を建設すること、などを川口市に求めて運動している団体です。

さて、6月25日、川口市新庁舎建設基本構想・基本計画審議会が開かれ、新庁舎建設がスタートしました。私たちの代表が第1回の審議会を傍聴しましたが、審議会の運営について、市の担当者は「時間がない」ことを再三にわたり発言し、「市の筋書きに沿った審議会運営」という印象を受けました。市にそのような意図があるとするならば、誠に遺憾であります。形だけの審議会とならないよう、切望いたします。

私たち市民は、身近にあって、便利な市役所を求めます。しかし、面積62平方キロメートルの広大な川口市において、1か所の本庁舎のみで58万市民がすべての行政サービスを受けることは、到底できません。差し迫っている少子高齢化社会を考えれば、猶のこと、各支所の機能充実や既存施設を有効に活用し、効率的に組み合わせた市の施設が求められます。

私たちは、新庁舎建設は、市が市民との関わりでどのような行政を行い、まちづくりをしようとしているのかが表れるものと考えます。市民が主人公、即ち、市民の立場に立った新庁舎建設の基本構想・基本計画が作られることを、強く期待しております。

今回の新庁舎建設は、老朽化とともに防災上の要請があったとされます。国は昨年12月、首都直下型地震での災害予測を示しました。私たちは、新市庁舎は当然、その災害に立ち向かう「使命」を併せ持つもので、新庁舎建設には、阪神淡路大震災や東日本大震災の教訓を汲みとり、災害に強いまちづくりに活かさねばならないと思っております。

以上により、次のことを要望します。

日々、お忙しいこととは存じますが、ご検討の上文書にてご回答いただきたいと存じます。また、ご回答にもとづき、懇談の場を設けて頂きますよう併せてお願い申し上げます。

記

I. 要望事項

1. 市民参加の市庁舎建設として下さい。

基本構想・基本計画が出来上がってから市民に発表するのではなく、策定段階から公民館単位に説明会をひらくなど、市民に情報を提供して意見交換を積極的に行って行ない、市民の意見を反映するようにして下さい。

2. 「市庁舎建設だより（仮称）」の定期的発行と回覧板の活用をすすめ、市民に周知徹底して下さい。

その内容は、新庁舎建設基本構想・基本計画審議会、庁内検討会議（4部会）及び、市議会危機管理対策・庁舎整備等特別委員会の討議内容を反映したものとして下さい。

3. 市民への行政サービスは、すべて支所で行うことを基本構想の柱に据え、『市民に便利なワンストップサービス』機能を各支所に備えて下さい。

4. 新庁舎は規模・意匠をコンパクトで簡素なものとし、建設費用の抑制、維持・管理費の軽減を重視した構造・設備として下さい。

5. 数次の大災害は、一極集中型機能の脆弱性が問題となっています。災害対策の観点からも、鳩ヶ谷庁舎などの既存施設を有効活用して下さい。

6. 地域コミュニティを重視したまちづくりこそが過去の大震災からの最大の教訓の一つです。すべての公民館の耐震化を図り、災害時の防災拠点である各支所と地域防災の連携拠点となる各公民館に必要な職員体制と機能を充実して下さい。

7. 戸塚地域に、地域防災の連携拠点を強化する上からも公民館を増設して下さい。

8. 市のハザードマップは、荒川破堤時に市役所周辺は2 mから5 mの水深になるとしており、この場合、災害対策本部が機能しなくなる恐れがあります。これに対応するため、浸水しないと想定する場所に洪水時の災害対策本部となり得る施設を確保して下さい。

II. 回答希望日 9月 1日（月曜日）

III. 懇談希望日 9月17日または9月24日（いずれも水曜日）

連絡先 電話 285-0776 山中

以上